

安楽寺報

令和三年度夏版
千葉山安楽寺執事所
0883-63-2015

暑中お見舞い申し上げます。

夏の法要

虫干会のご案内

八月六日(金)
午前10時開式

佛教壮年会勉強会併修

於 美馬安楽寺本堂

虫干会は古くからの伝統行事です。物特に掛け軸を害虫から護る為、一年一回に掛けて保護する安楽寺夏の風物詩です。旧暦六月二十八日に行う習わしです。以前は、西教寺・林照寺も共に開陳していたようですが今は安楽寺だけになりました。夏の暑い一日を、お寺で過ごして下さい。

八月の佛教壮年会は
虫干会に併せて
美馬安楽寺で行います
十時開式

お誘い合わせお参り下さい

安楽寺報

令和三年度夏版
千葉山安楽寺執事所
0883-63-2015

暑中お見舞い申し上げます。

夏の法要

虫干会のご案内

八月六日(金)
午前10時開式

佛教壮年会勉強会併修

於 美馬安楽寺本堂

虫干会は古くからの伝統行事です。物特に掛け軸を害虫から護る為、一年一回に掛けて保護する安楽寺夏の風物詩です。旧暦六月二十八日に行う習わしです。以前は、西教寺・林照寺も共に開陳していたようですが今は安楽寺だけになりました。夏の暑い一日を、お寺で過ごして下さい。

八月の佛教壮年会は
虫干会に併せて
美馬安楽寺で行います
十時開式

お誘い合わせお参り下さい



親鸞聖人お誕生850年
立教開宗800年慶讃法要
令和五年本山西本願寺降誕会勤修
安楽寺法要は令和六年勤修予定

法要記念品「大心海」扁額謹製

脇町安楽寺本堂に架かっている扁額の写しを法要記念品として御門徒に配布するため作成中です

安楽寺「夏のキッズサンガ」
とき 8月18日(水)

ところ 美馬町安楽寺
午前9時本堂集合午後3時解散
対象 小学校 男・女児童
吉野川カヌー体験・夏研修
持参品 聖典・念珠・水着・タオル・水筒
参加費 1名1,000円 申込は8月7日まで
Tel 0883-63-2015 fax 0883-63-5536



法要に着用
納依七条袈裟新調
ご寄贈 拝西富永様



親鸞聖人お誕生850年
立教開宗800年慶讃法要
令和五年本山西本願寺降誕会勤修
安楽寺法要は令和六年勤修予定

法要記念品「大心海」扁額謹製

脇町安楽寺本堂に架かっている扁額の写しを法要記念品として御門徒に配布するため作成中です

安楽寺「夏のキッズサンガ」
とき 8月18日(水)

ところ 美馬町安楽寺
午前9時本堂集合午後3時解散
対象 小学校 男・女児童
吉野川カヌー体験・夏研修
持参品 聖典・念珠・水着・タオル・水筒
参加費 1名1,000円 申込は8月7日まで



法要に着用
納依七条袈裟新調
ご寄贈 拝西富永様



「浄土真宗のみ教え」についての親教

本年も、皆さまと共に立教開宗記念法要のご勝縁に遇（あ） わせていただきました。立教開宗とは親鸞聖人が『教行信証（きょうぎょうしんしんしょう）』を著（あ）らわ）して他力の念仏を体系的にお示しになり、浄土真宗のみ教えを確立されたことをいいます。この法要をご縁として、私たちに浄土真宗のみ教えが伝わっていることをあらためて味わわせていただきます。さて、仏教を説かれたお釈迦さまは、諸行無常（しよぎょうむじょう）や 諸法無我（しよほうむが） という言葉でこの世界のありのままの真実を明らかにされました。この真実を身をもって受け入れることのできない 私わたくしたちは、日々「苦しみ」を感じて生きていますが、その代表的なものが「生老病死（しょうろうびじょうし）」の「四苦（しきく）」であるとお釈迦さまは表されました。むさぼり・いかり・おろかさなどの 煩惱（ぼんのう）を抱えた私たちは、いのち終わるその瞬間まで、苦しみから逃れることはできません。

このように真実をありのままに受け入れられない私たちのことを、親鸞聖人は「煩惱具足（ぼんのうぐそく）」の 凡夫（ぼんぶ）と言われました。そして、阿彌陀如来は煩惱の 闇（やみ）に 沈（しず）む私たちをそのままに救い取りたいと願われ、その慈悲の心を「南無阿彌陀仏（なまのみだぶつ）」のお念仏に込めてはたらき続けてくださっています。ご和讃に「罪業（ざいごう）もとりかたちなし 妄想顛倒（もうぞうてんどう）のなせるなり」「煩惱・菩提体無二（ぼだいたいむに）」とありますように、人間の 分別（ぶんべつ）がはたらき出す前のありのままの真実に基づく如来のお慈悲ですから、いのちあるものすべてに平等にそがれ、誰一人として見捨てられることなく、そのままの姿で 撰（おさ）め取ってくださいます。

親鸞聖人は「念仏成仏これ真宗」（『浄土和讃』）、「信は願より生ずれば 念仏成仏 自然（じねん） なり 自然はすなはち報土なり 証大涅槃（しょうだいねはん）うたがはず」（『高僧和讃』）とお示しになっています。浄土真宗とは、「われにまかせよ そのまま救う」という「南無阿彌陀仏」に込められた阿彌陀如来のご本願のお心を疑いなく受け入れる信心ただ一つで、「自然じねん の浄土」（『高僧和讃』）でかたちを超えたこの上ないさとりを開いて仏に成るといふみ教えです。

阿彌陀如来に願われないのちと知らされ、その温かな慈悲に触れる時、大きな 安心（あんしん）とともに生きていく力が与えられ、人と喜びや悲しみを分かち合い、お互いに 敬（うやま）い支え合う世界が開かれてきます。如来のお慈悲に救われていく安心と喜びのうえから、 仏恩報謝（ぶつとんほうしゃ）の道を歩まれたのが親鸞聖人でした。私たちが聖人の生き方に学び、次の世代の方々にご法義がわかりやすく伝わるよう、ここにその肝要を「浄土真宗のみ教え」として味わいたいと思います。

「浄土真宗のみ教え」

◎南無阿彌陀仏（なまのみだぶつ）「われにまかせよ そのまま救（すく） う」の 弥陀（みだ） のよび声（こゑ）

私（わたし）の 煩惱（ぼんのう）と 仏（ほとけ）のさとりは 本来（ほんらい）一（ひと）つゆえ

「そのまま 救（すく） う」が 弥陀（みだ）のよび声（こゑ）ありがとう といたいて、この愚身（み）をまかす このままで

救（すく） い取（と） られる 自然（じねん）の 浄土（じょうど） 仏恩報謝（ぶつとんほうしゃ）のお念仏（ねんぶつ）

◎み教（おしえ）を 依（よ）りどころに 生（い）きる 者（もの）となり

少（すこ）しずつ 執（とら）われの心（こころ）を 離（はな）れます

生（いか）されていくことに 感謝（かんしゃ）して むさぼり いかりに 流（なが）されず

穩（おだ）やかな 顔（かお）と 優（やさ）しい言葉（ことば）

喜（よろこ）びも 悲（かな）しみも 分（わ）ち合（あ）い 日々（ひび）に 精一杯（せいいつぱい）つとめます

来る2023（令和5）年には親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要をお迎えいたします。聖人が御誕生され、浄土真宗のみ教えを私たちに説き示してくださいましたことに感謝して、この「浄土真宗のみ教え」を共に唱和し、共につとめ、み教えが広く伝わるようお念仏申す人生を歩ませていただきます。なお、2018（平成30）年の秋の法要（全国門徒総追悼法要）の親教において述べました「私たちのちかい」は、中学生や高校生、大学生をはじめとして、これまで仏教や浄土真宗にあまり親しみのなかった方々にも、さまざまな機会を引き続き唱和していただき、み教えにつながっていくご縁にさせていただきたいと願っております。

2021（令和3）年4月15日 浄土真宗本願寺派門主 大谷光淳

本願寺制作パンフレット「新しい日常の中で」「私たちのちかい」参照下さい

「浄土真宗のみ教え」についての親教

本年も、皆さまと共に立教開宗記念法要のご勝縁に遇（あ） わせていただきました。立教開宗とは親鸞聖人が『教行信証（きょうぎょうしんしんしょう）』を著（あ）らわ）して他力の念仏を体系的にお示しになり、浄土真宗のみ教えを確立されたことをいいます。この法要をご縁として、私たちに浄土真宗のみ教えが伝わっていることをあらためて味わわせていただきます。さて、仏教を説かれたお釈迦さまは、諸行無常（しよぎょうむじょう）や 諸法無我（しよほうむが） という言葉でこの世界のありのままの真実を明らかにされました。この真実を身をもって受け入れることのできない 私わたくしたちは、日々「苦しみ」を感じて生きていますが、その代表的なものが「生老病死（しょうろうびじょうし）」の「四苦（しきく）」であるとお釈迦さまは表されました。むさぼり・いかり・おろかさなどの 煩惱（ぼんのう）を抱えた私たちは、いのち終わるその瞬間まで、苦しみから逃れることはできません。

このように真実をありのままに受け入れられない私たちのことを、親鸞聖人は「煩惱具足（ぼんのうぐそく）」の 凡夫（ぼんぶ）と言われました。そして、阿彌陀如来は煩惱の 闇（やみ）に 沈（しず）む私たちをそのままに救い取りたいと願われ、その慈悲の心を「南無阿彌陀仏（なまのみだぶつ）」のお念仏に込めてはたらき続けてくださっています。ご和讃に「罪業（ざいごう）もとりかたちなし 妄想顛倒（もうぞうてんどう）のなせるなり」「煩惱・菩提体無二（ぼだいたいむに）」とありますように、人間の 分別（ぶんべつ）がはたらき出す前のありのままの真実に基づく如来のお慈悲ですから、いのちあるものすべてに平等にそがれ、誰一人として見捨てられることなく、そのままの姿で 撰（おさ）め取ってくださいます。

親鸞聖人は「念仏成仏これ真宗」（『浄土和讃』）、「信は願より生ずれば 念仏成仏 自然（じねん） なり 自然はすなはち報土なり 証大涅槃（しょうだいねはん）うたがはず」（『高僧和讃』）とお示しになっています。浄土真宗とは、「われにまかせよ そのまま救う」という「南無阿彌陀仏」に込められた阿彌陀如来のご本願のお心を疑いなく受け入れる信心ただ一つで、「自然じねん の浄土」（『高僧和讃』）でかたちを超えたこの上ないさとりを開いて仏に成るといふみ教えです。

阿彌陀如来に願われないのちと知らされ、その温かな慈悲に触れる時、大きな 安心（あんしん）とともに生きていく力が与えられ、人と喜びや悲しみを分かち合い、お互いに 敬（うやま）い支え合う世界が開かれてきます。如来のお慈悲に救われていく安心と喜びのうえから、 仏恩報謝（ぶつとんほうしゃ）の道を歩まれたのが親鸞聖人でした。私たちが聖人の生き方に学び、次の世代の方々にご法義がわかりやすく伝わるよう、ここにその肝要を「浄土真宗のみ教え」として味わいたいと思います。

「浄土真宗のみ教え」

◎南無阿彌陀仏（なまのみだぶつ）「われにまかせよ そのまま救（すく） う」の 弥陀（みだ） のよび声（こゑ）

私（わたし）の 煩惱（ぼんのう）と 仏（ほとけ）のさとりは 本来（ほんらい）一（ひと）つゆえ

「そのまま 救（すく） う」が 弥陀（みだ）のよび声（こゑ）ありがとう といたいて、この愚身（み）をまかす このままで

救（すく） い取（と） られる 自然（じねん）の 浄土（じょうど） 仏恩報謝（ぶつとんほうしゃ）のお念仏（ねんぶつ）

◎み教（おしえ）を 依（よ）りどころに 生（い）きる 者（もの）となり

少（すこ）しずつ 執（とら）われの心（こころ）を 離（はな）れます

生（いか）されていくことに 感謝（かんしゃ）して むさぼり いかりに 流（なが）されず

穩（おだ）やかな 顔（かお）と 優（やさ）しい言葉（ことば）

喜（よろこ）びも 悲（かな）しみも 分（わ）ち合（あ）い 日々（ひび）に 精一杯（せいいつぱい）つとめます

来る2023（令和5）年には親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要をお迎えいたします。聖人が御誕生され、浄土真宗のみ教えを私たちに説き示してくださいましたことに感謝して、この「浄土真宗のみ教え」を共に唱和し、共につとめ、み教えが広く伝わるようお念仏申す人生を歩ませていただきます。なお、2018（平成30）年の秋の法要（全国門徒総追悼法要）の親教において述べました「私たちのちかい」は、中学生や高校生、大学生をはじめとして、これまで仏教や浄土真宗にあまり親しみのなかった方々にも、さまざまな機会を引き続き唱和していただき、み教えにつながっていくご縁にさせていただきたいと願っております。

2021（令和3）年4月15日 浄土真宗本願寺派門主 大谷光淳

本願寺制作パンフレット「新しい日常の中で」「私たちのちかい」参照下さい